

カラードフェンダー 取付要領書

品番:MSD15-B1001/2-XX ライズ

品番:MSD15-B1003-XX ロッキー

設定型式:A2##A-GB##/A2##S-GB## 設定グレード:全車

このたびは、モデリスタ商品をお買い上げ頂きましてありがとうございます。
本書は、カラードフェンダーの取付要領について記載してあります。
取り付け前に必ずお読み頂き、正しい取り付けを行なって下さい。

取り付け上の注意事項

- 取り付け前に車両に傷がついていないか点検して下さい。
- エンジンがかかっている状態では絶対に作業を行なわないで下さい。
- 車両部品の取り外しに際して、紛失や混乱がない様に部品ごとに整理して、復元する際間違えない様配慮して下さい。また、部品に傷を付けたりしない様に取り扱いに注意して作業を行なって下さい。
- 本書で指示した部品以外は、取り外さない様注意して下さい。
- 商品を取り付ける部分の汚れ、ゴミ、ホコリをウエスで拭き取って下さい。
- エンドモール(両面テープ付き)・両面テープを貼り付ける部分は、必ず脱脂して下さい。脱脂作業を怠ると両面テープを接着しても剥がれる場合があります。
- 両面テープの接着力促進剤として、必ず両面テープ用プライマーを塗って下さい。
(PACプライマーN-200、PACプライマーK-500を本品に添付)
- 重要** プライマーの効力を発揮させる為、塗布後、常温で10分間以上放置し乾燥させて下さい。
- 重要** ■両面テープは、外気温が20℃以下になると接着力が低下しますので、両面テープ及び被接着面をドライヤー等で温めてから貼り付け作業を行なって下さい。
- 両面テープのプライマーは、溶剤が揮発するため速やかに作業を終了して下さい。
- 両面テープのプライマーは、塗装面を黄変させますので必ず塗装面をマスキングし、はみだしたプライマーは、直ちにイソプロピルアルコール(IPA)等で完全に拭き取って下さい。
- ボディーコートが塗布されている車両は塗装用コンパウンドでボディーコートを剥離して下さい。(必ずマスキングし、なるべく細かい番手で行なう。)ボディーコートが塗布されている車両は脱脂作業を行なっても、プライマーの接着力促進効果を十分に発揮できない場合があります。ボディーコート除去後は、イソプロピルアルコール(IPA)等で脱脂をきちんと行なって下さい。
- 重要** ■両面テープの圧着を充分に行なって下さい。49N(5kgf)
- 重要** ■フェンダーアーチ部等のビス本締めは両面テープ貼り付け後3時間以上放置後行なって下さい。

取り付け完了後の点検・注意事項

- カラードフェンダーが、車両に確実に共締めされているか点検して下さい。
- 両面テープの全ての離型紙が剥がされ、確実に圧着されているか点検して下さい。
- 取り付け完了後、カラードフェンダー及び車両部品に傷がついていないか点検して下さい。
- 取り付け完了後、最低24時間は強い力をかけたり、雨等で濡れない様注意して下さい。
(両面テープの剥がれ、車両とカラードフェンダーとの間に隙間が発生するおそれがあります。)

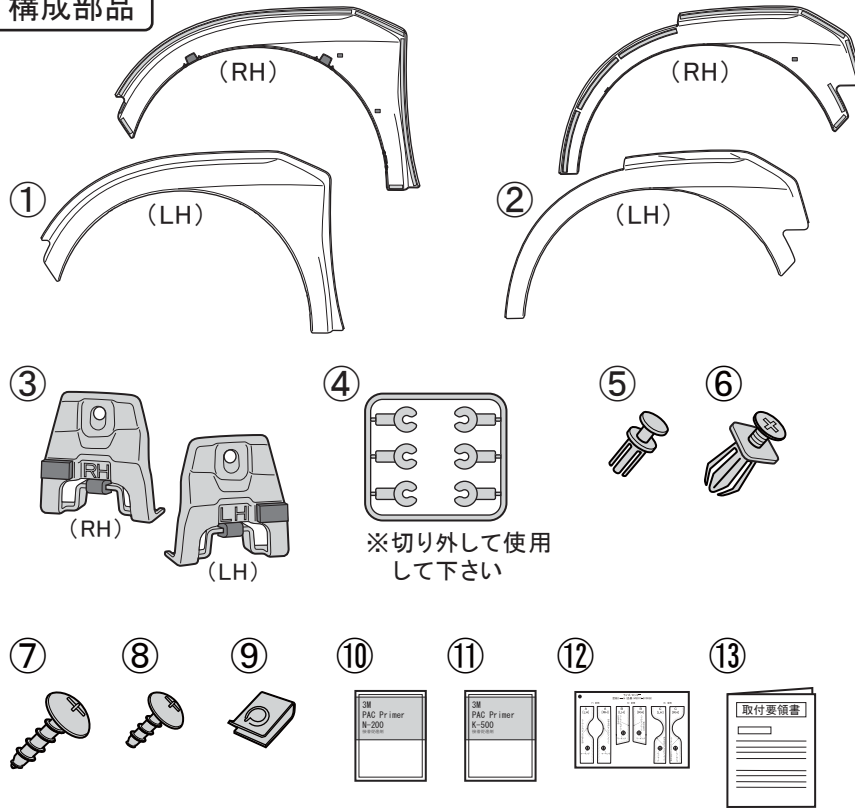


アドバイス…この取付要領書では、スピーディーに安全な作業をして頂く上で知っておいて頂きたい事を左図マークで表示しております。

ライズ/ロッキー モデルスタ バージョン

カラードフェンダー (品番:MSD15-B1001/2-XX ライズ)
 (品番:MSD15-B1003-XX ロッキー)

構成部品

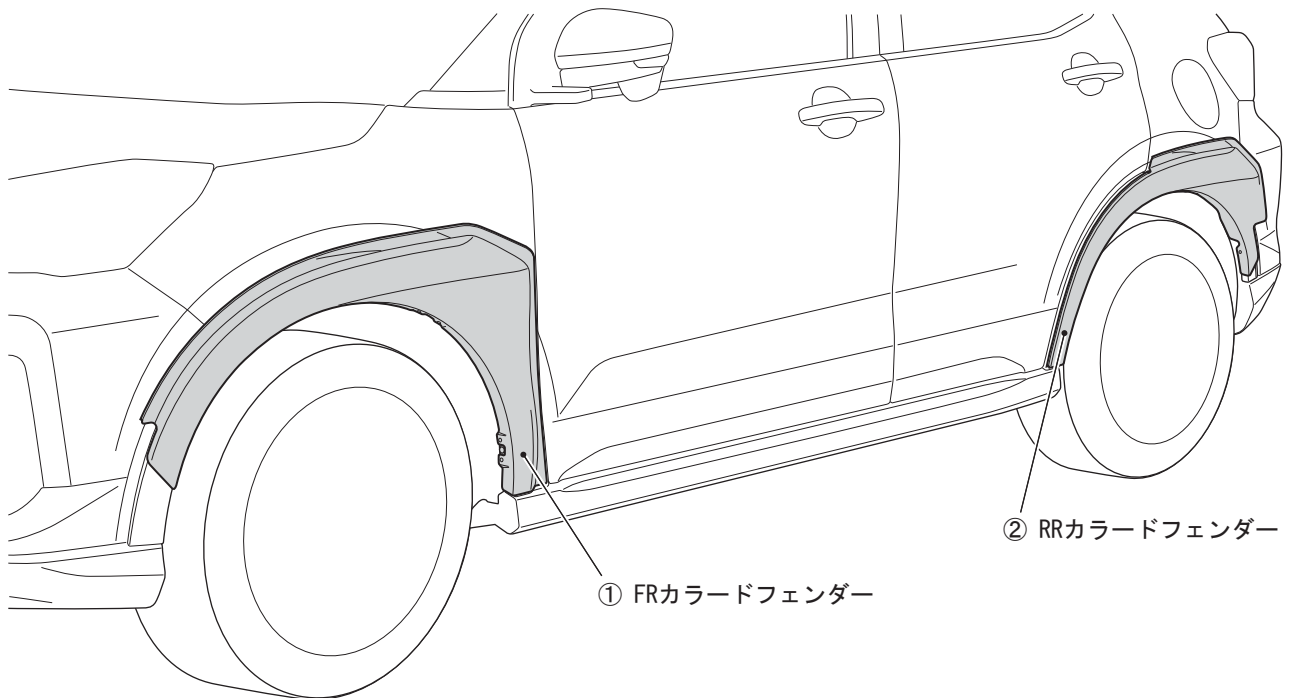


No.	品名	個数
①	FRカラードフェンダー (RH/LH)	各1
②	RRカラードフェンダー (RH/LH)	各1
③	ブラケットD (RH/LH)	各1
④	スペーサー	6
⑤	プラスティリベット	4
⑥	スクリベット	2
⑦	タッピングスクリュー (M6×16)	2
⑧	タッピングスクリュー (M4×12)	6
⑨	Uナット (M4)	6
⑩	PACプライマー (N-200)	1
⑪	PACプライマー (K-500)	1
⑫	型紙シール	1
⑬	取付要領書	1

・本製品とリヤスカートorリヤスパッツを同時装着する場合は、
 本製品、リヤスカートorリヤスパッツの順で取り付けてください。

取り付け概要

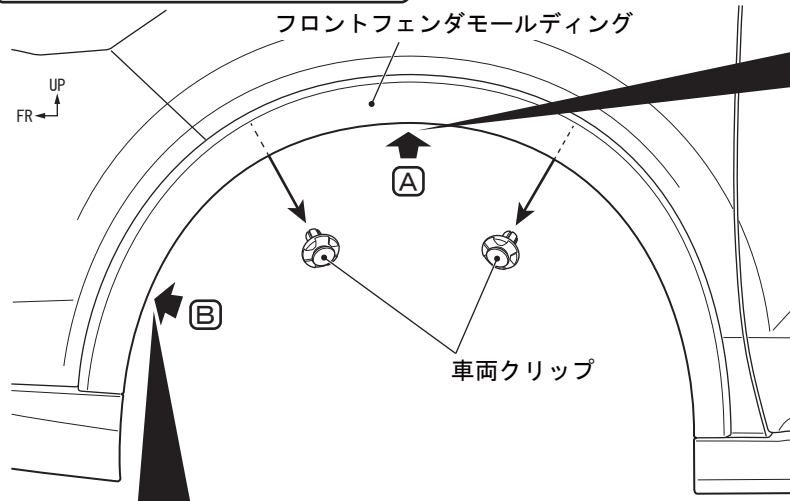
LH図示



取り付け手順

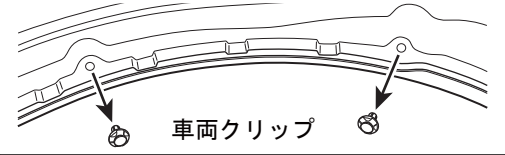
※以下の手順はLH側を図示しています。RH側も同様に行ってください。

(1) 取り付け準備 フロント



1. 車両FRフェンダーライナー(A)部から車両クリップを取り外す。(左・下図参照)

[矢視図 A] フェンダーライナー側から



アドバイス

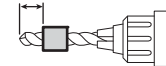
- ・取り外しの詳細は、トヨタ自動車発行の修理書を参照して下さい。
- ・取り外した車両クリップは再使用しますので紛失しない様ご注意ください。

2. フロントフェンダモールディングのタイヤハウス面(B)部に⑫型紙シールAをパーティングラインに合わせて貼り付け十字中心に下穴φ3→本穴φ5を開ける。(左図参照)

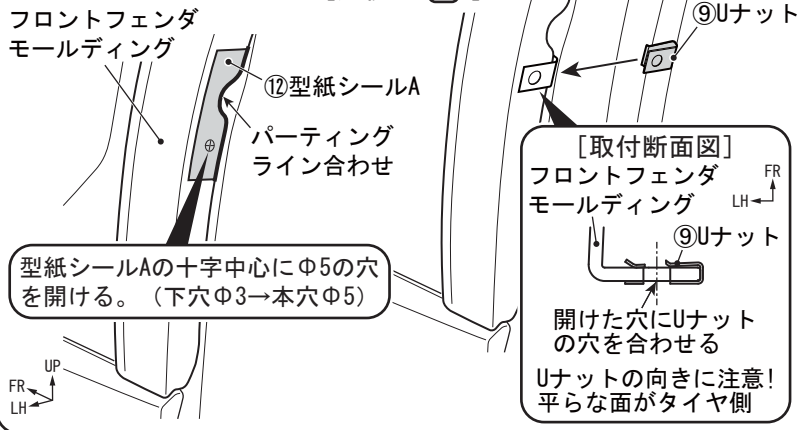
注意

- ・傷つき防止の為ドリル先端から約5mmの位置に、ガムテープ等を巻いて下さい。

約5mm



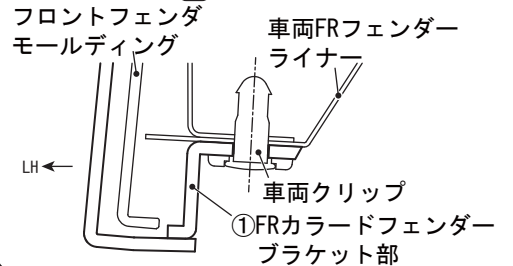
[矢視図 B]



3. ⑫型紙シールAを剥がし、フロントフェンダモールディングに開けた穴に、⑨Uナットの穴を合わせて差し込み込む。(左図参照)

4. ①FRカラードフェンダーを下から押し上げるように車両に合わせ、(A)部のブラケットの穴を、車両フェンダーライナーのクリップ取付穴に合わせ、車両クリップを差し込む。(下図参照)

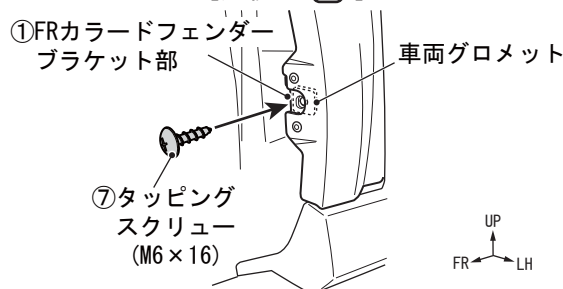
[A] 取付断面図



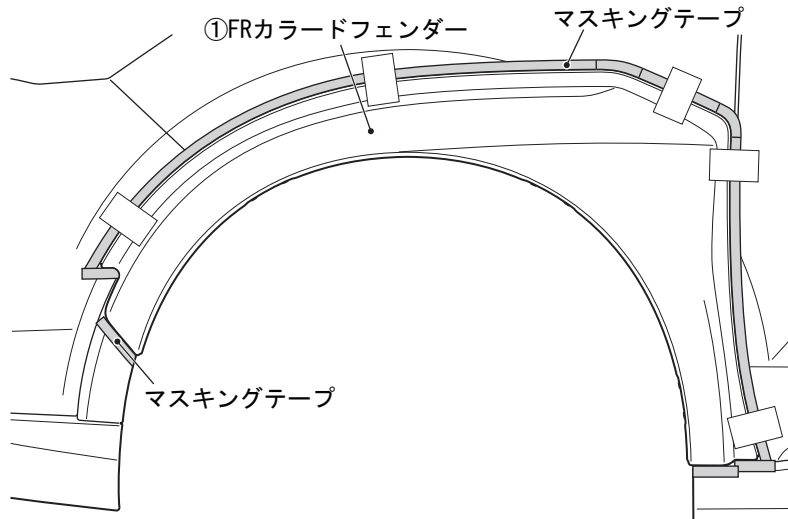
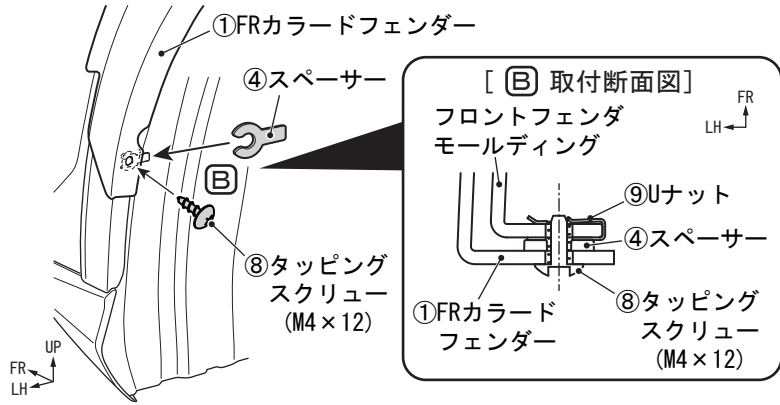
①FRカラードフェンダー後方のモールの端と車両フェンダーRエンドを一定に合わせてガムテープ等で仮固定する。(左図参照)

5. 車両タイヤハウス面後方の車両グロメットに①FRカラードフェンダー(C)部のブラケットの穴を合わせて、⑦タッピングスクリュー(M6×16)で仮締めする。(左図参照)

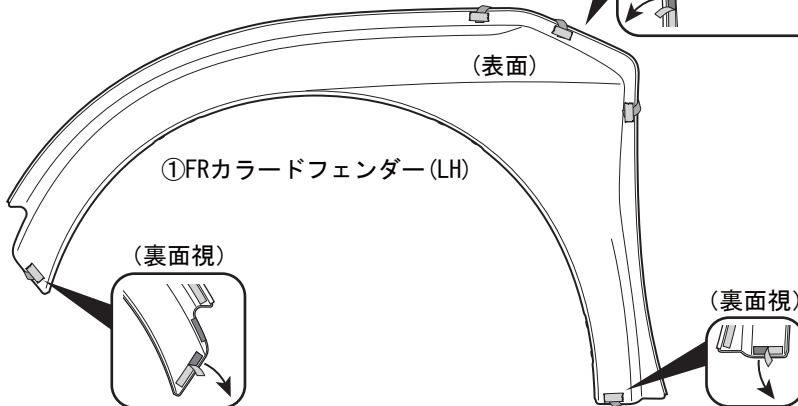
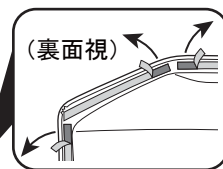
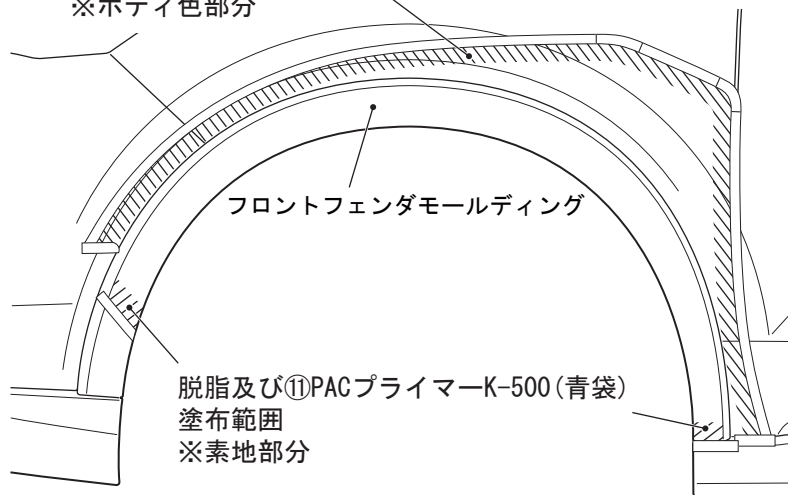
[矢視図 C]



車両フェンダーの端と車両フェンダーRエンドの端を一定に合わせて仮固定する



脱脂及び⑩PACプライマーN-200 (赤袋) 塗布範囲
※ボディ色部分



6. [B] 部を左図のように⑧タッピングスクリュー (M4×12) で仮締めする。その際、④スペーサーを⑨Uナットと、①FRカラードフェンダーの間に入れて仮締めする。

7. ①FRカラードフェンダーのモール上端及び前後の下端に合わせてマスキングテープを貼り付ける。(左図参照)
※位置出しと脱脂及びプライマーがはみ出さない様にする為正確にマスキングテープを貼り付けて下さい。

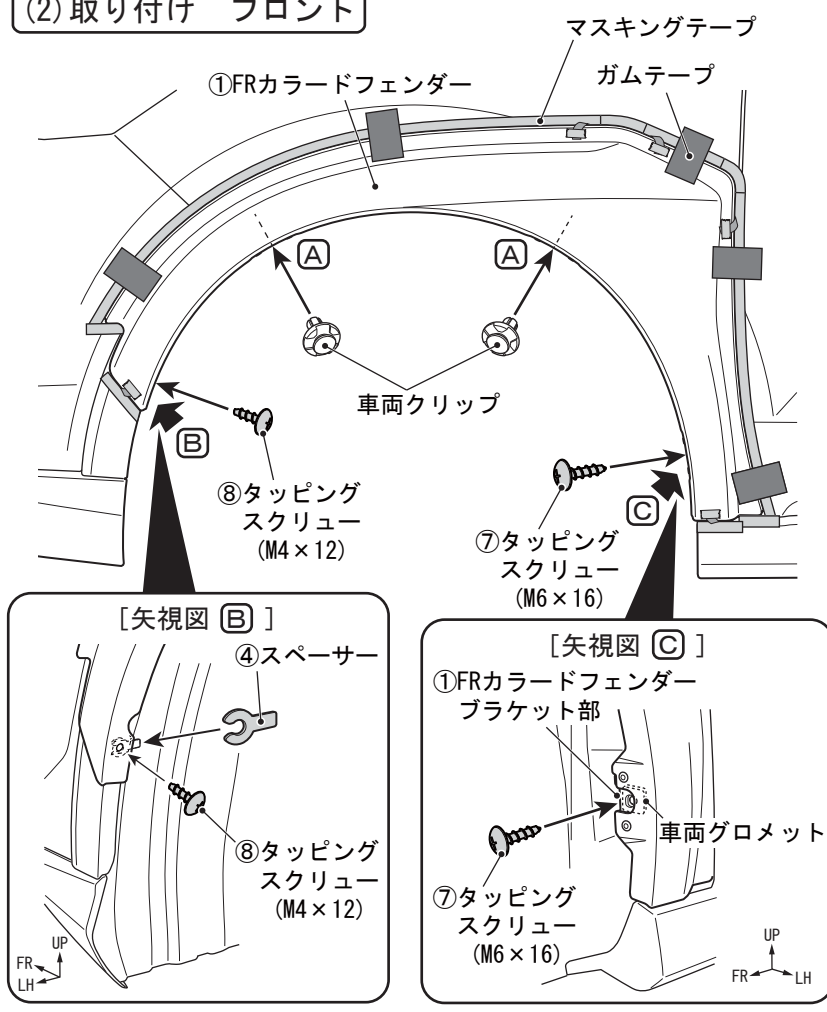
8. ①FRカラードフェンダーを取り外し、両面テープ貼り付け部 (左図斜線部) を一方向に拭いて脱脂し、ボディ色部分に⑩PACプライマーN-200、素地部分に⑩PACプライマーK-500を塗布する。

アドバイス

- PACプライマーは特に白色塗装面を黄変させますので、マスキングするか、はみ出したプライマーは、イソプロピルアルコール(IPA)等で拭き取って下さい。
- PACプライマー塗布後は、常温で10分以上放置し乾燥させて下さい。
- ボディーコート処理されている車両は、マスキングをして両面テープ貼り付け部分を塗装用コンパウンドで除去して下さい。
- PACプライマーは、必ず塗布部位によって使い分けてください。
- 塗装部分 : N-200 (赤袋)
- 素地部分 : K-500 (青袋)
- PACプライマーは再使用します。揮発性が高いので速やかに袋に戻し揮発を抑えて下さい。

9. ①FRカラードフェンダーの両面テープ離型紙を一部剥がし表面に折り返してマスキングテープで貼り付ける。(左図参照)

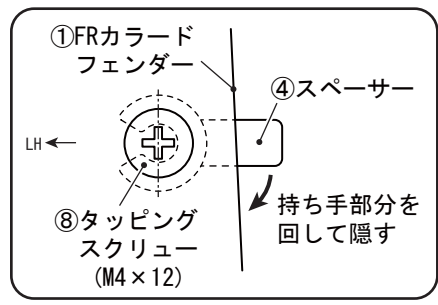
(2) 取り付け フロント



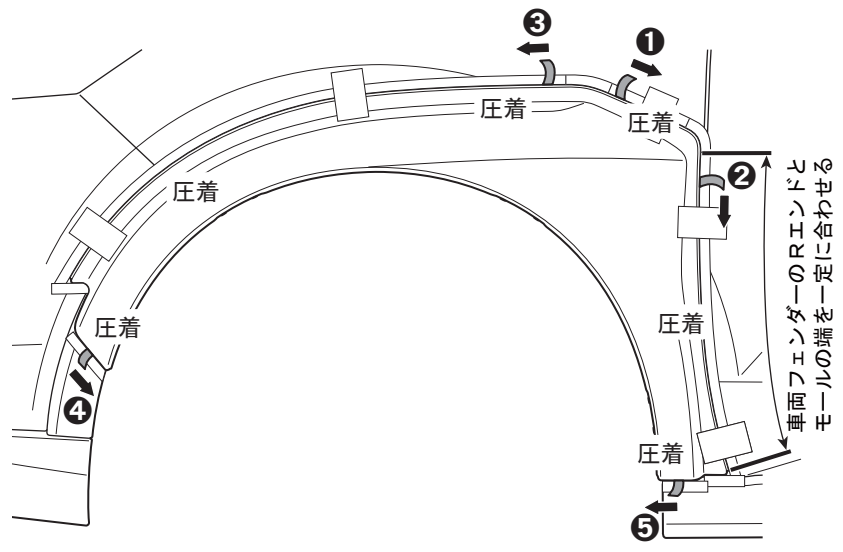
1. (1) 取り付け準備の手順で①FRカラードフェンダーを車両に合わせ、**A**部のブラケットの穴を車両フェンダーライナーのクリップ取付穴に合わせて車両クリップを差し込む。位置出しと脱脂及びプライマー塗布の為に貼り付けたマスキングテープに、位置を合わせガムテープ等で仮固定する。

C部のブラケットの穴で車両グロメットに⑦タッピングスクリュー(M6×16)で仮締めする。

B部を左図のように⑧タッピングスクリュー(M4×12)で仮締めする。その際、④スペーサーを⑨Uナットと、①FRカラードフェンダーの間に入れて仮締めする。
※④スペーサーの持ち手部分は①FRカラードフェンダーの中へ回して隠して下さい。



※離型紙を引き抜く順序



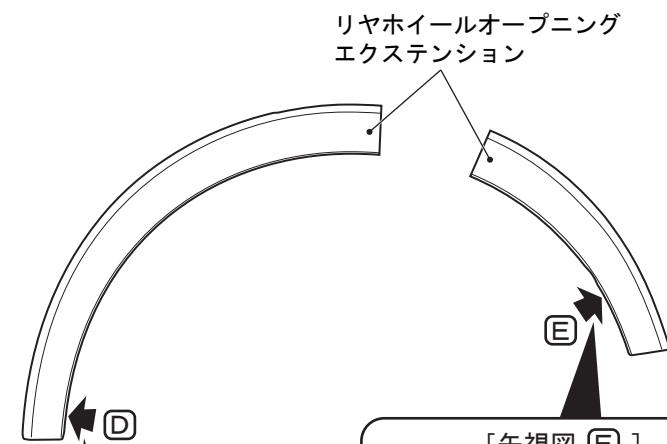
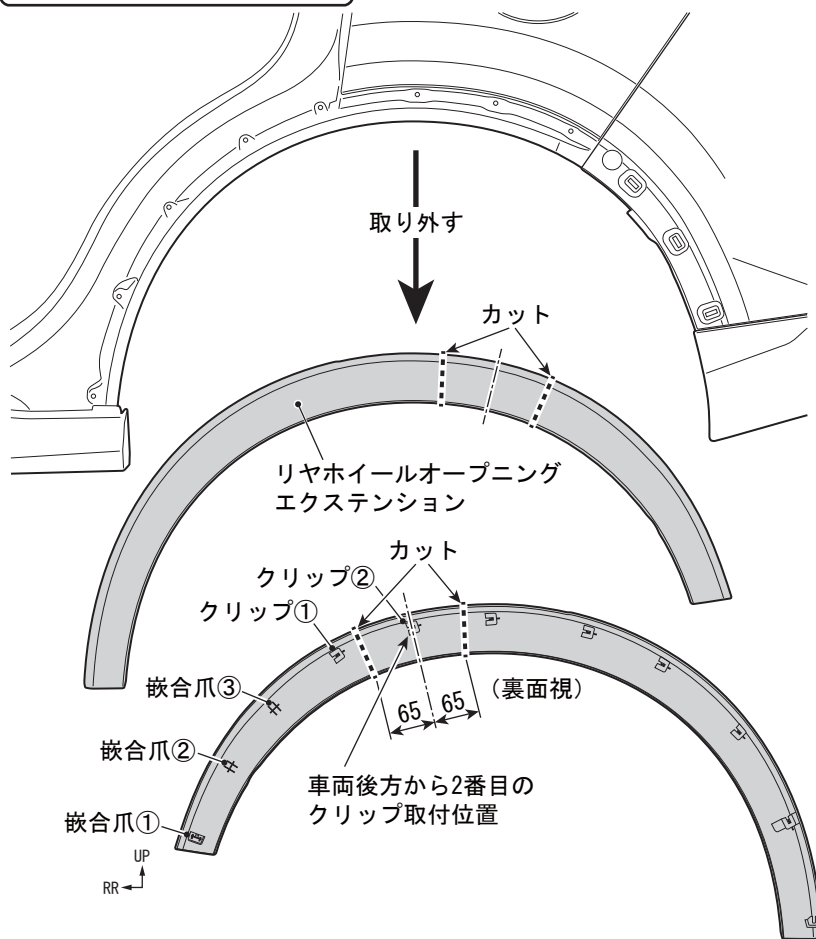
2. ①FRカラードフェンダーの取り付け位置が変わらない様に、離型紙を①から順に矢印の方向に引き抜き圧着する。
※離型紙を引き抜く際に、モールを巻き込まない様に注意して下さい。

アドバイス

- 両面テープの貼り直しをすると、接着力が極端に低下しますので、気を付けて作業を行なって下さい。
- 両面テープの圧着は、49N(5kgf)程度の力で行って下さい。

3. RH側も同様の手順にて取り付ける。
4. マスキングテープを全て剥がす。
5. 取り付けした両面テープ貼り付け位置を再圧着する。
6. 両面テープ貼り付け後、3時間以上放置してから仮締めを本締めする。

(3) 取り付け準備 リヤ



[矢視図 D]

リヤホイールオープニングエクステンション

⑫型紙シールB

パーティングライン合わせ

FR UP LH

型紙シールBの十字中心にΦ5の穴を開ける。(下穴Φ3→本穴Φ5)

[矢視図 E]

リヤホイールオープニングエクステンション

⑫型紙シールC

パーティングライン合わせ

FR UP LH

型紙シールCの十字中心にΦ5の穴を開ける。(下穴Φ3→本穴Φ5)

1. リヤホイールオープニングエクステンションを取り外す。

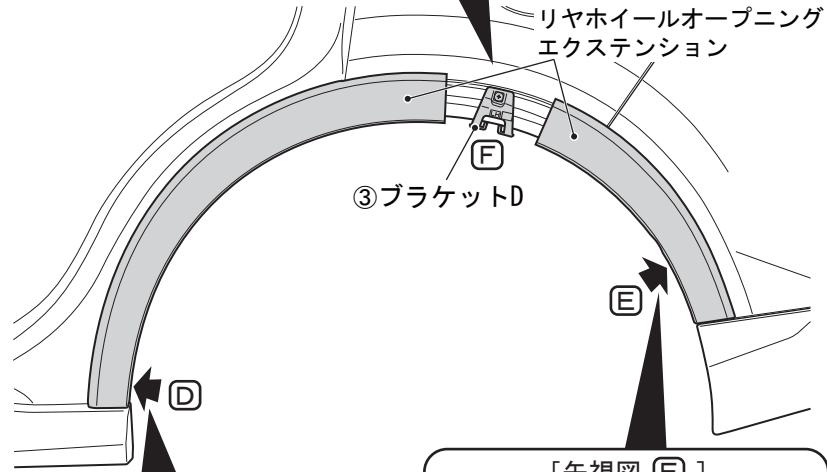
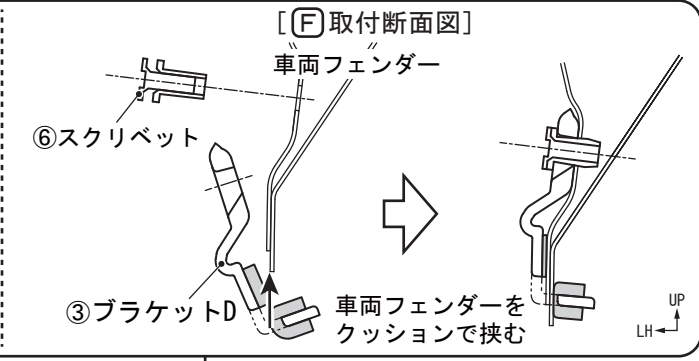
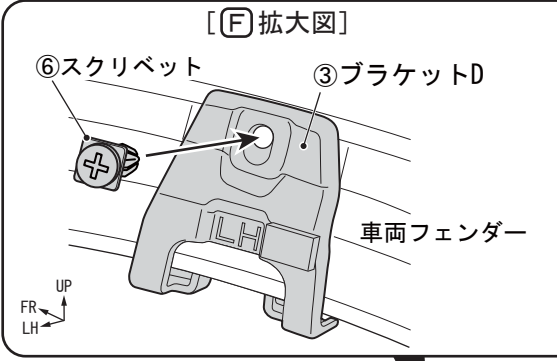
👉 **アドバイス**

- 取り外しの詳細は、トヨタ自動車発行の修理書を参照して下さい。
- 取り外したリヤホイールオープニングエクステンション、クリップは再使用しますので紛失しない様ご注意ください。

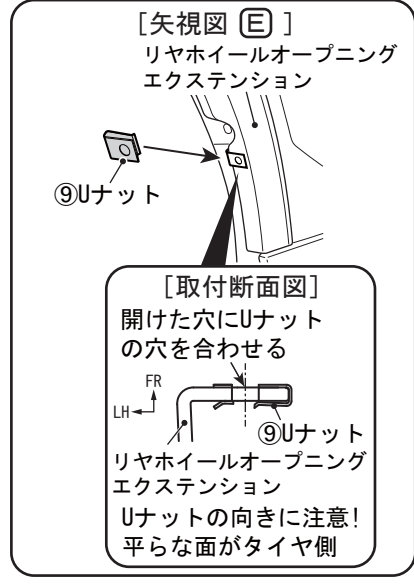
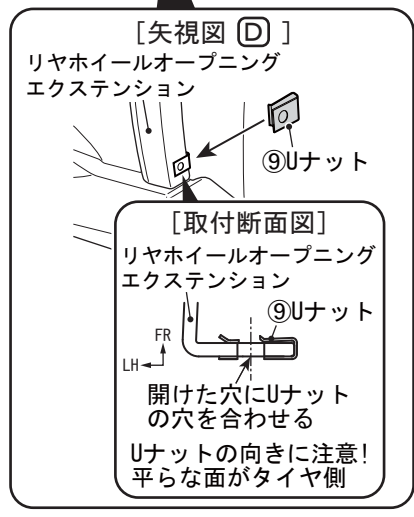
2. 取り外したリヤホイールオープニングエクステンションを、車両後方から2番目のクリップ取付位置を中心に、約130mmの幅でカットしバリを除去する。
(左図参照)

3. カットしたリヤホイールオープニングエクステンションの、タイヤハウス面D部に⑫型紙シールB、E部に⑫型紙シールCをパーティングラインに合わせて貼り付け、十字中心に下穴φ3→本穴φ5を開ける。(左図参照)

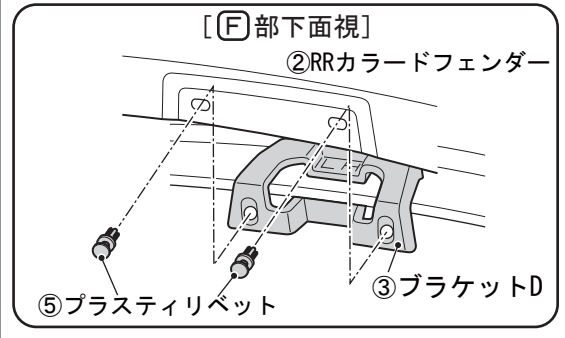
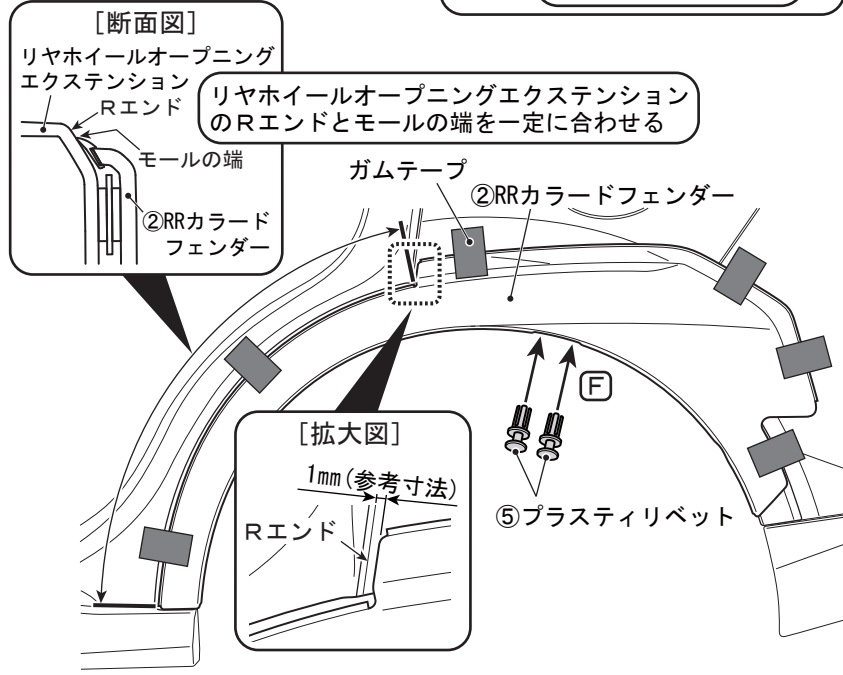
4. ⑫型紙シールB、Cを剥がす。



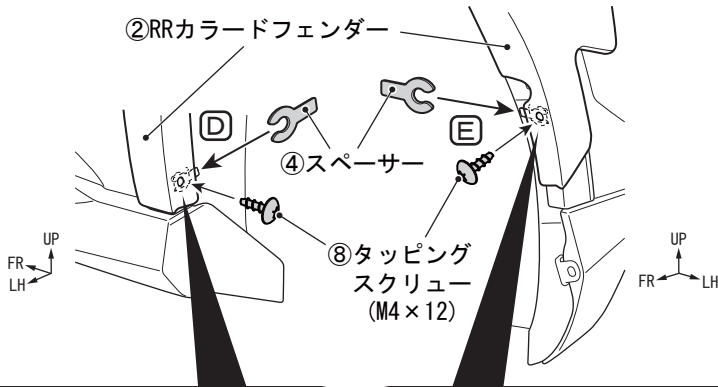
5. カットしたリヤホイールオープニング
エクステンションを車両に復元し、〔F〕
部の車両フェンダーの穴に③ブラケッ
トDを合わせ⑥スクリベットを差し込む。
(左・上図参照)
※⑥スクリベットがきつい場合は、指で
押し込んだ後、+ドライバーで締め込
んで下さい。



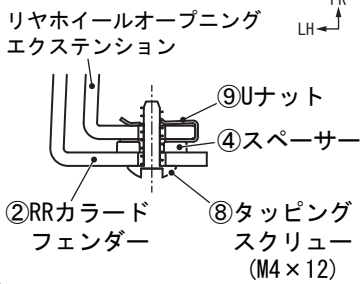
6. リヤホイールオープニングエクステ
ンションD、E部に開けた穴に、⑨Uナ
ットの穴を合わせて差し込む。
(左図参照)



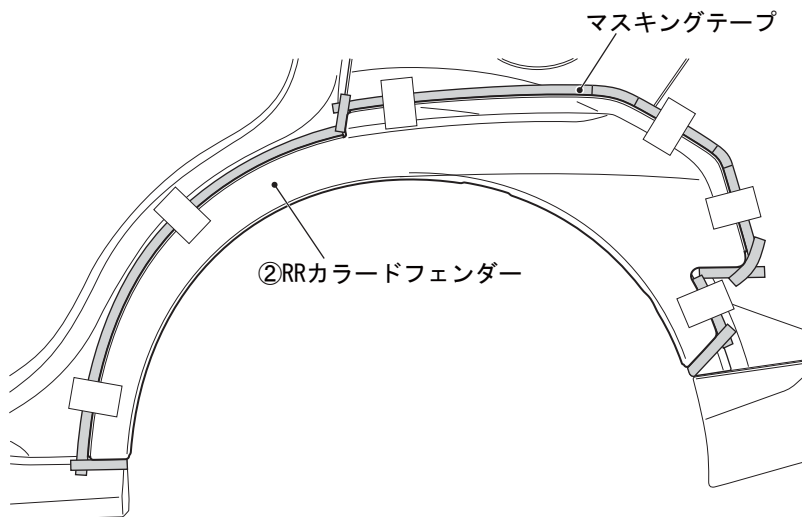
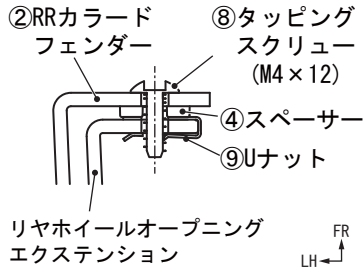
②RRカラードフェンダー上部段差の縦
端末を車両RRフェンダーのRエンドから約1mm(参考寸法)の位置に合わせ、リ
ヤホイールオープニングエクステ
ンションのRエンドとモールの端を一定に
合わせてガムテープ等で仮固定する。
(左図参照)



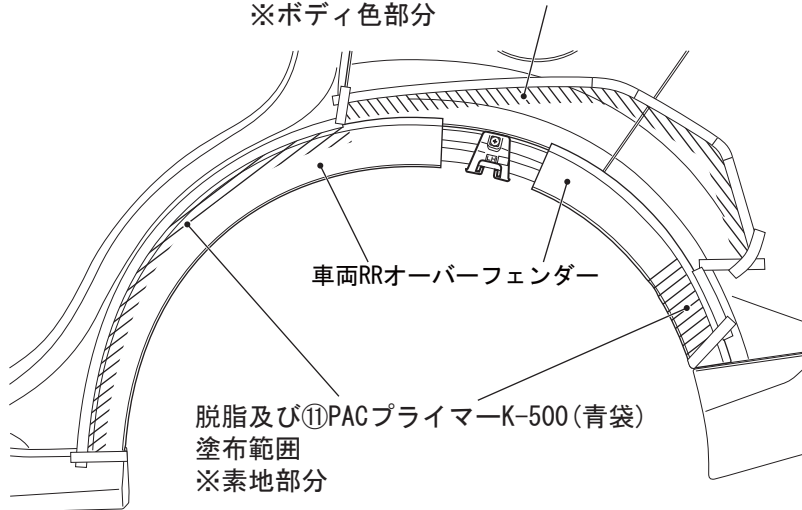
〔D〕取付断面図



〔E〕取付断面図



脱脂及び⑩PACプライマー-N-200(赤袋)塗布範囲
※ボディ色部分



脱脂及び⑪PACプライマー-K-500(青袋)
塗布範囲
※素地部分

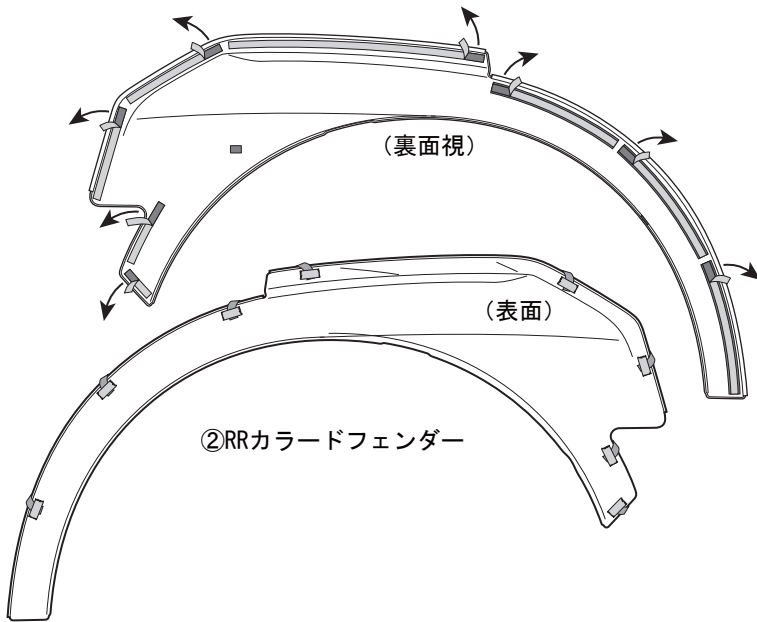
8. ④、⑤部を左図のように⑧タッピングスクリュー(M4×12)で仮締めする。その際、④スペーサーを⑨Uナットと、②RRカラードフェンダーの間に入れて仮締めする。(2カ所)
(左図参照)

9. ②RRカラードフェンダーのモール上端及び前後の外周に合わせてマスキングテープを貼り付ける。(左図参照)
※位置出しと脱脂及びプライマーがはみ出さない様にする為正確にマスキングテープを貼り付けて下さい。

10. ②RRカラードフェンダーを取り外し、両面テープ貼り付け部(左図斜線部)を一方方向に拭いて脱脂し、ボディ色部分に⑩PACプライマー-N-200、素地部分に⑪PACプライマー-K-500を塗布する。

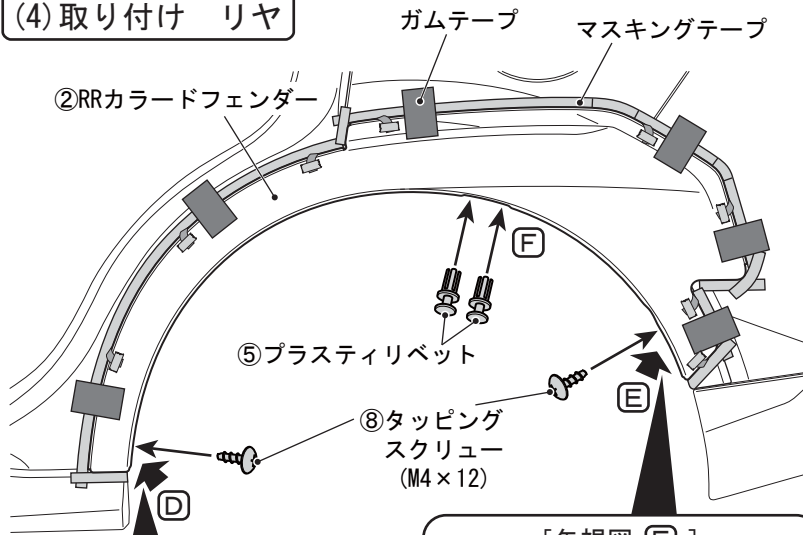
アドバイス

- PACプライマーは特に白色塗装面を黄変させますので、マスキングするか、はみ出したプライマーは、イソプロピルアルコール(IPA)等で拭き取って下さい。
 - PACプライマー塗布後は、常温で10分以上放置し乾燥させて下さい。
 - ボディーコート処理されている車両は、マスキングをして両面テープ貼り付け部分を塗装用コンパウンドで除去して下さい。
 - PACプライマーは、必ず塗布部位によって使い分けてください。
- 塗装部分：N-200(赤袋)
■ 素地部分：K-500(青袋)
- PACプライマーは再使用します。揮発性が高いので速やかに袋に戻し揮発を抑えて下さい。



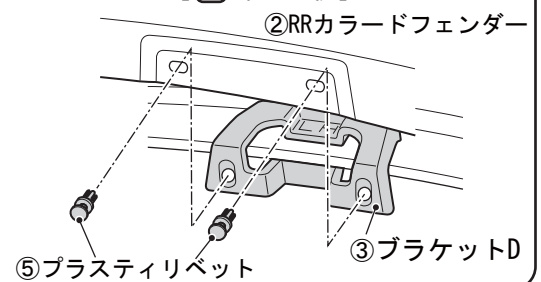
11. ②RRカラードフェンダーの両面テープ
離型紙を一部剥がし表面に折り返して
マスキングテープで貼り付ける。
(左図参照)

(4) 取り付け リヤ



1. (3) 取り付け準備の手順で②RRカラード
フェンダーを車両に合わせ、**F**部の穴
を③ブラケットDの穴に合わせ、⑤プラ
スティリベットを差し込む。

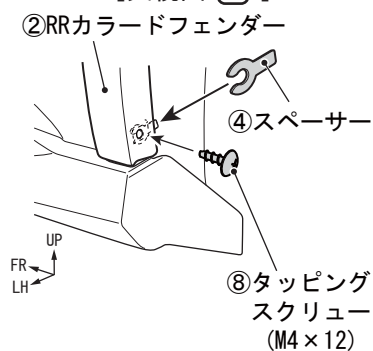
[F]部下面視



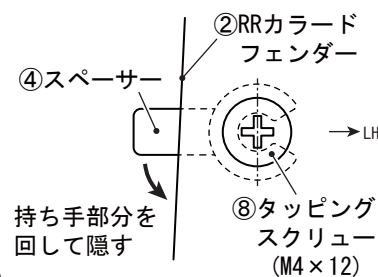
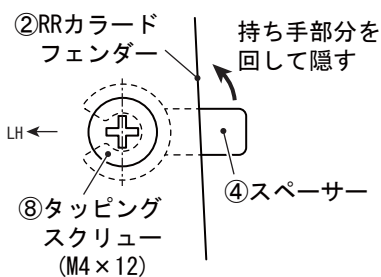
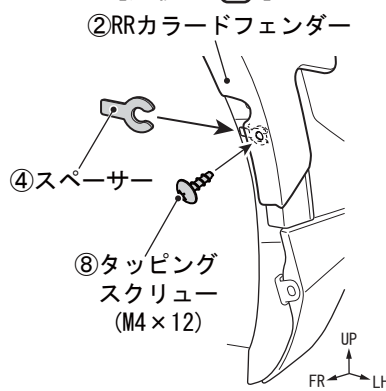
位置出しと脱脂及びプライマー塗布の
為に貼り付けたマスキングテープに、
位置を合わせガムテープ等で仮固定す
る。

D、**E**部を左図のように⑧タッピング
スクリュー (M4×12) で仮締めする。
その際、④スペーサーを⑨Uナットと、
②RRカラードフェンダーの間に
入れて仮締めする。(2カ所)
※④スペーサーの持ち手部分は②RRカ
ラードフェンダーの中へ回して隠し
て下さい。

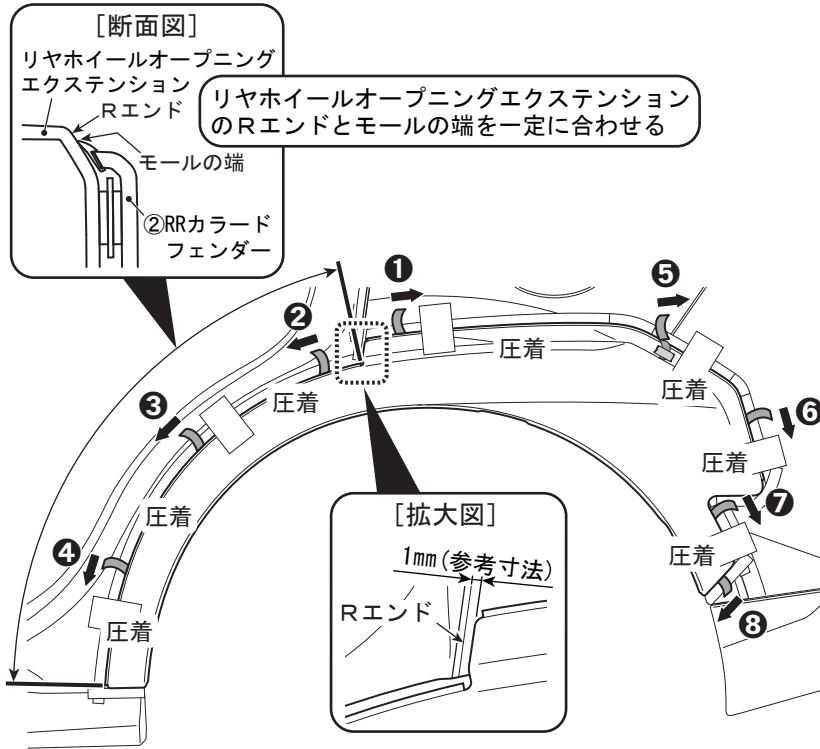
[矢視図 D]



[矢視図 E]



※離型紙を引き抜く順序



2. ②RRカラードフェンダーの取り付け位置が変わらない様に、離型紙を①から順に矢印の方向に引き抜き圧着する。
 ※離型紙を引き抜く際に、モールを巻き込まない様に注意して下さい。

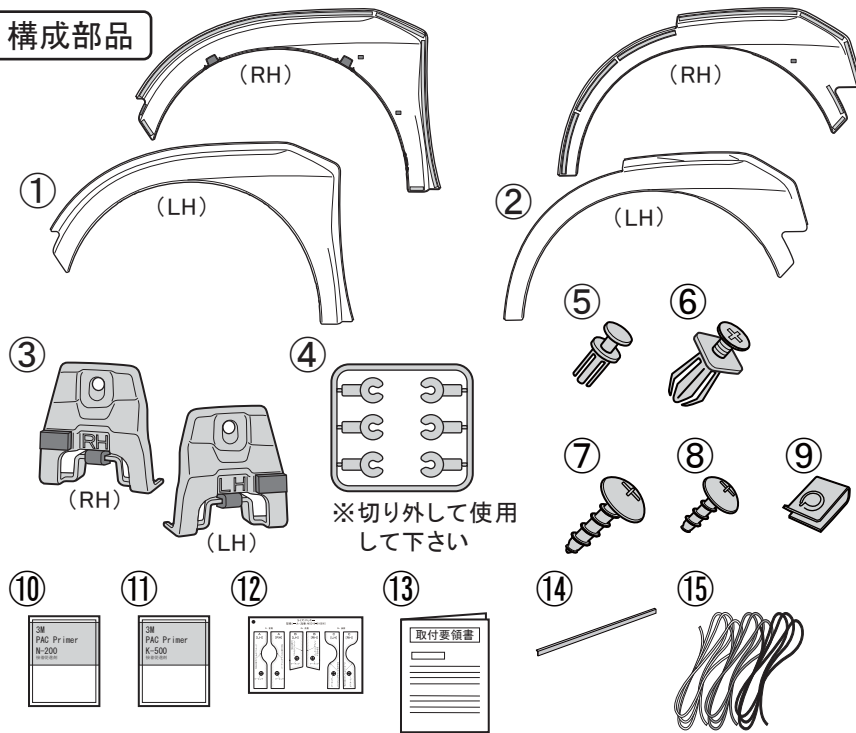
👉 アドバイス

- 両面テープの貼り直しをすると、接着力が極端に低下しますので、気を付けて作業を行なって下さい。
- 両面テープの圧着は、49N(5kgf)程度の力で行って下さい。

3. RH側も同様の手順にて取り付ける。
 4. マスキングテープを全て剥がす。
 5. 取り付けた両面テープ貼り付け位置を再圧着する。
 6. 両面テープ貼り付け後、3時間以上放置してから仮締めを本締めする。

カロードフェンダー素地品の塗装手順

構成部品



No.	品名	個数
①	FRカロードフェンダー (RH/LH)	各1
②	RRカロードフェンダー (RH/LH)	各1
③	ブラケットD (RH/LH)	各1
④	スペーサー	6
⑤	プラスチックリベット	4
⑥	スクリベット	2
⑦	タッピングスクリュー (M6×16)	2
⑧	タッピングスクリュー (M4×12)	6
⑨	Uナット (M4)	6
⑩	PACプライマー (N-200)	1
⑪	PACプライマー (K-500)	1
⑫	型紙シール	1
⑬	取付要領書	1
⑭	Lモール	1
⑮	エンドモール	Lグレー:2 グレー:2 ブラック:2

塗装作業

1. 塗装面の汚れ、ゴミ、ホコリをウエスで取り除き、必ず脱脂を行なう。
2. 製品に貼り付けてある両面テープ全面、クッション全面、ブラケットをマスキングする。
3. プライマーサフェーサー塗装を行なう。

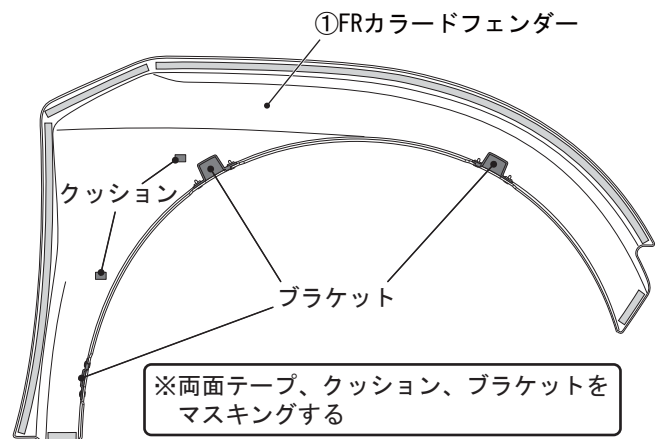
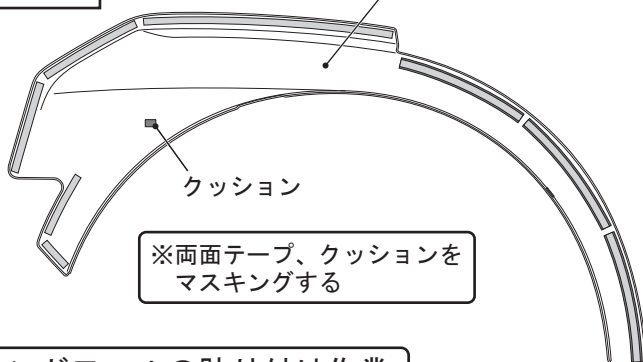
※本製品の素材は>ABS<です。

4. 上塗り塗装を行なう。
◎注記：上塗り用の塗料はウレタン系をご使用下さい。
5. 乾燥。
◎注記：乾燥温度は、成形樹脂の物性上、必ず60℃以下で乾燥させて下さい。

⑮エンドモール推奨使用色

色番号	色名称	モール色
B82	レーザーブルークリスタルシャイン	ブラック
B86	ターコイズマイカメタリック	ブラック
R67	ファイアークォーツレッドメタリック	ブラック
R75	コンパーノレッド	ブラック
S28	ブライツシルバーメタリック	ライトグレー
S42	スムーズグレーマイカメタリック	グレー
T32	ナチュラルベージュマイカメタリック	グレー
W25	シャイニングホワイトパール	ライトグレー
X07	ブラックマイカメタリック	ブラック
Y15	マスタードイエローマイカメタリック	ライトグレー

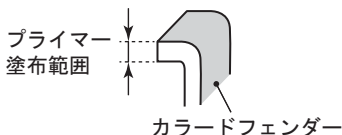
LH図示 ※RHも同様に ②RRカロードフェンダー



エンドモールの貼り付け作業

1. 塗装終了後、⑮エンドモール(以下モールと省略)を貼り付ける部分を脱脂し、⑩PACプライマーK-500を塗布する。

PACプライマーK500塗布範囲



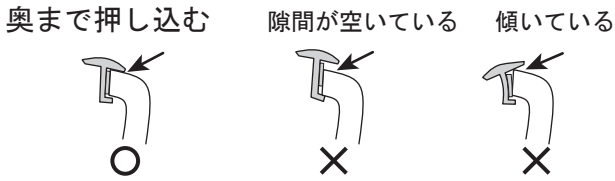
アドバイス

- ・⑩PACプライマーK-500はカロードフェンダー取り付け時に再使用します。揮発性が高いので、速やかに袋に戻し揮発を抑えて下さい。
- ・⑩PACプライマーK-500は特に白色塗装面を黄変させますので、マスキングするか、はみ出したプライマーは、直ちにイソプロピルアルコール(IPA)等で拭き取って下さい。
- ・⑩PACプライマーK-500塗布後は、常温で10分間以上放置し乾燥させて下さい。

2. 下図の要領で⑭Lモール、⑮モールの貼り付ける。

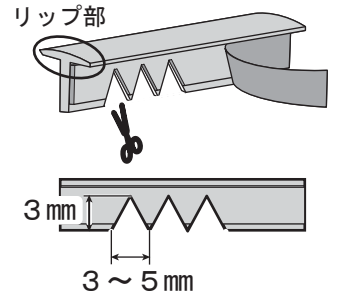
アドバイス

- ・モールを引っ張りながら貼ると、極端に剥がれやすくなります。絶対に引っ張りながら貼らないで下さい。
- ・モールは必ず奥まで差し込んで下さい。
- ・貼り付け後、十分に圧着して下さい。

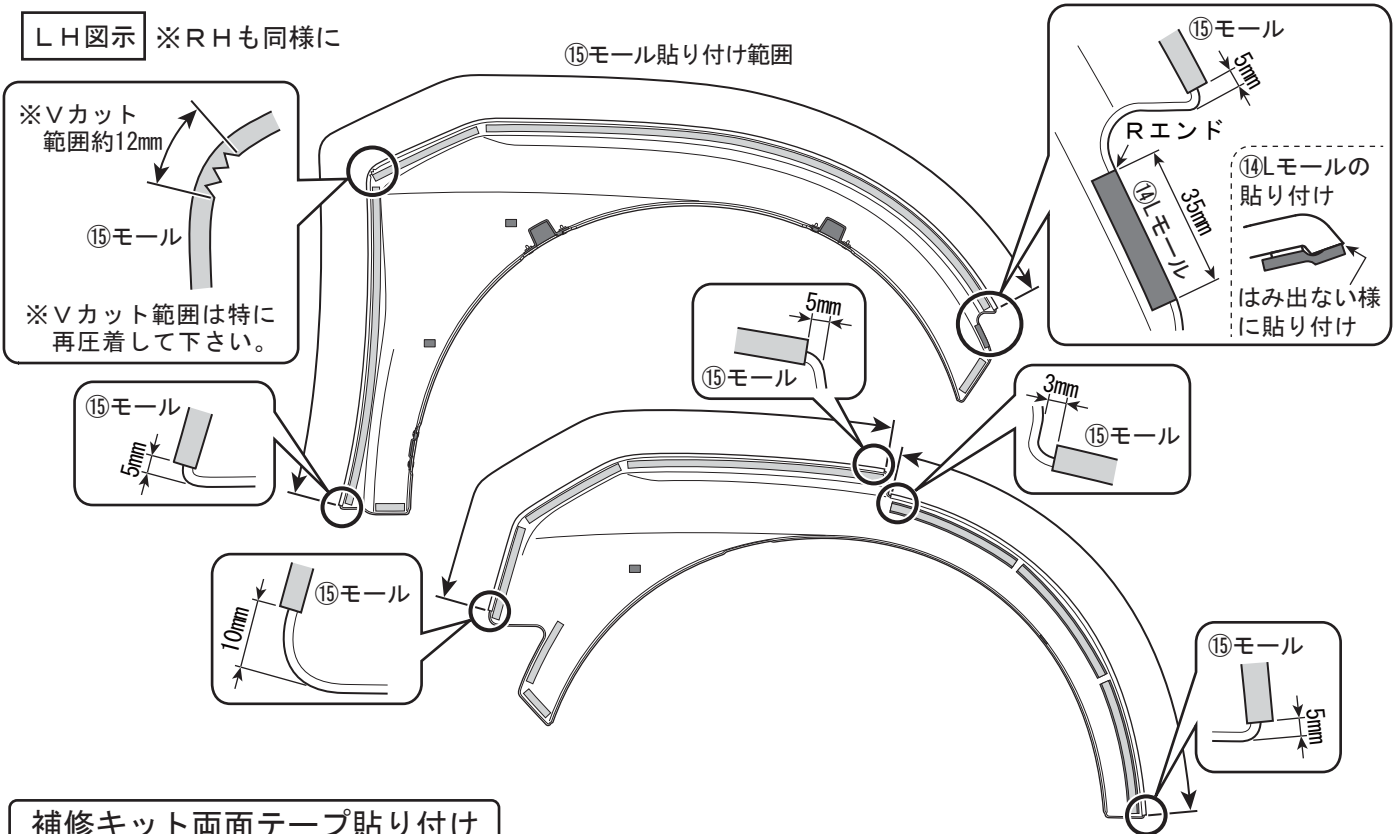


※Vカットの入れ方

- ・必ず両面テープが付いている側を手前にしてカットする。
- ・離型紙を剥がしながらカットする。
- ・大きさ・範囲を確認し、右図リップ部をカットしない様に注意する。



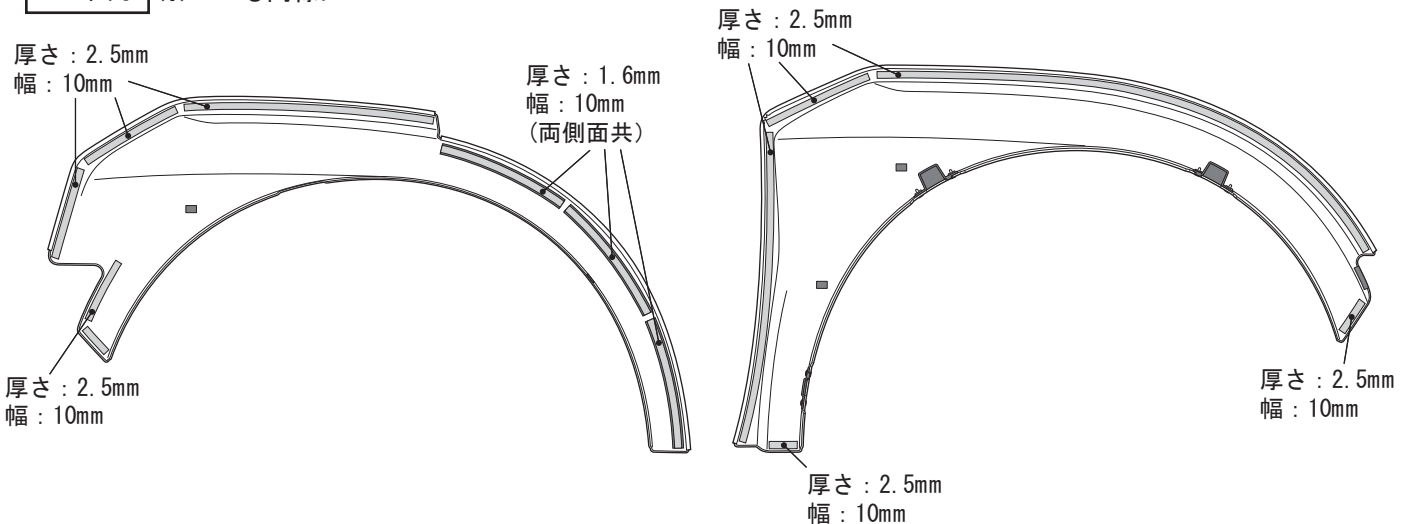
LH図示 ※RHも同様に



補修キット両面テープ貼り付け

1. 補修キットを使用してカラードフェンダーの再取り付けを行なう際は下図を参考に両面テープを選択し貼り付けて下さい。(元の位置と同様に貼り付けて下さい。)

LH図示 ※RHも同様に



脱脂作業要領書

本書ではエアロパーツ等を取付ける際の脱脂作業について記載してあります。
取付け前に必ずお読みいただき、正しい要領で脱脂作業を行ってください。

エアロパーツの取付け・脱脂作業の要領を
解説動画でご覧いただけます。
右のQRコードよりアクセスのうえ
ご確認ください。

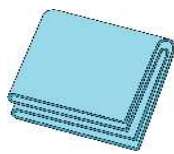


- ①エアロ取付準備・脱脂 (約3分)
 - ②エアロ位置決め・取付・圧着 (約6分)
 - ③デカール準備・水貼り・圧着 (約4分)
- 合計 約13分

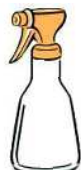
■ 取付け時の脱脂作業に必要な工具等



水拭き用バケツ



合成セーム皮



脱脂剤用
スプレーボトル



ゴム手袋



DRY 用
ウエス



WET 用
ウエス



イソプロピルアルコール(IPA)
純度 70%程度を推奨
※純度 100%はモールを痛めるため
使用しないこと

■ 脱脂作業上の注意事項

1. ホコリ・チリ等のない換気の良い作業場で作業を行ってください
2. 隣接する場所で、ワックスがけやポリッシュ作業等を行わないで下さい。
※飛散した油脂やワックス等の成分が車両に付着してしまいます。
3. 脱脂剤を取り扱いの際は、眼・皮膚に触れないように保護具を着用のこと。
4. 脱脂剤を取り扱いの際は、作業場に火気・熱源のないことを確認すること。
5. 脱脂剤を取り扱いの際は、蒸気を吸い込まないように作業場内の換気に注意のこと。

⚠ 注 意・・・注意事項を守らないと事故につながったり、ケガをしたり、車両を損傷する等のおそれがあることを記載しています。

👉 アドバイス・・・スピーディーに確実に作業していただく上で、知っておいていただきたいことを記載しています。



使用禁止



ブレーキクリーナー
パーツクリーナー



ホームセンター等でキャンプ用
燃料用として販売されている
ホワイトガソリン〔白ガス〕

市販のブレーキ・パーツクリーナー及びキャンプ用品や燃料用のホワイトガソリンは油脂分や不揮発性添加物が含まれているものがありますので使用しないで下さい。
コーティング剤の下地処理剤は、用途と異なるため脱脂作業には使用しないで下さい。
脱脂不足により、浮き・ハガレの原因となります。

★脱脂作業概要《重要》

◎【脱脂作業】とは、取付け面の表面に付着した油脂分を取り除き、両面テープの性能を十分に発揮させるための重要な下地処理です。

下地処理が不十分だと、両面テープの性能が著しく低下して、浮き・ハガレ脱落などの不具合を起こす場合があります。

大変に重要な作業となりますので確実に行ってください。

◎ 脱脂剤は、取付け面に付着した油脂分を浮かび上がらせて、ウエスへの吸着を促す溶剤です。

脱脂剤で取付け面を拭いただけでは、十分な脱脂は行えません。

《脱脂作業前に》以降の作業要領を十分に理解したうえで作業を行ってください。

■ 脱脂作業前に

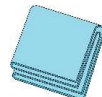
- 取付け面のホコリ・チリ等の汚れを十分な流水で洗い流す。
汚れのひどい場合は、洗剤を使用して汚れを落とし、洗剤を十分に洗い流すこと。
- 取付け面にコーティング等を施工されている場合は、除去剤・コンパウンド等を使用し除去してください。除去後、十分に水洗いを行ってください。
※コーティング剤が残っていると両面テープはハガれます。
- 水洗い後は、取付け面に付いた水滴を完全にふき取ってください。

■ 脱脂作業要領

- 取付け面の洗浄を行い、固く絞った合成セーム革等を使用し拭き上げて水滴をしっかりと取り除く。



水拭き用バケツ



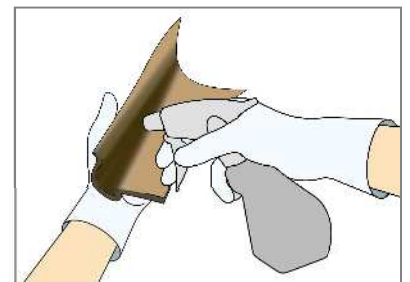
合成セーム皮

- スプレーボトルに入れた脱脂剤をWET用ウエスに吹きつける。



WET 用ウエス

※ ウエスは清潔なウエスを使用して、拭き上げ時にクズなどが出ない素材を選んでください。



WET 用ウエスにスプレーボトルを 5 cm ほど離して、初回は 10 回程度スプレーをして、ウエスが湿っている状態で取付け面を拭いてください。以降は WET ウエス表面が乾く前に追加で 5 回程度スプレーし、常に湿った状態を保つようにしてください。

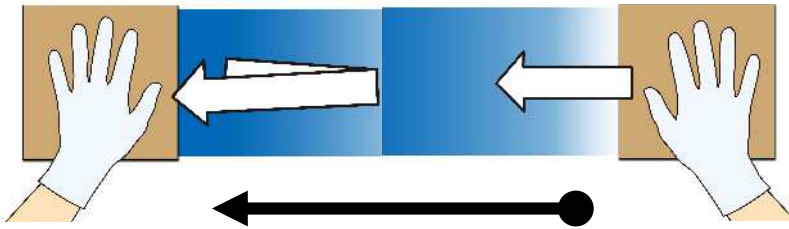
● 取付け面の脱脂作業を行う

①【WET 拭き】

脱脂剤を含ませたウエスで
1 往復で拭き油脂分を浮き上がらせる

②【DRY 拭き】

DRY 拭きウエスで一方向に
拭き上げ油脂分を取り除く



1 ブロック 60 cm 程度として両手に WET と DRY のウエスを交互に持ち
WET⇒DRY の順に拭き上げて脱脂する。

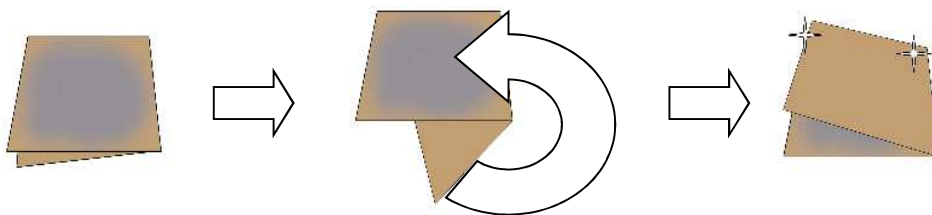
範囲が広い場合は 1 ブロック 毎を数回に分けて行い、仕上げに面を通して拭き上げる



WET 拭きのあと脱脂剤が乾かないうちに DRY 拭きで一気に拭き上げを
行ってください。

(上図のように両手にウエスを持ち作業を行うと素早く作業できます。)

DRY 拭き作業後に拭き上げた面に、拭き跡が残っている場合は油脂分が
残っていますので、再度 WET・DRY 拭きを行ってください。



WET/DRY のウエス共に 3~5 ブロック 毎にウエス表面を折り返し
ウエスの拭き取り面が常に清潔な状態で作業を行ってください。

汚れたままのウエスを使い続けると、ウエスに拭き取った油脂分が取付け面に
再び付着して、エアロパーツの浮き・ハガレの原因となります。

脱脂作業がしっかり行われている取付け面は、DRY 拭きを行った際に
ウエスへの抵抗が増して、拭き上げが重くなります。
作業前と作業後のウエスの抵抗感を目安に、脱脂を行ってください。

脱脂後の取付け面には、指などを触れないように作業を行ってください。

脱脂後は長時間放置せず、すぐに作業を行ってください。

チリ・ホコリ等が付着しないように、十分注意してください。
パーツの取り付け方法は、各パーツの取扱説明書ならびに取付要領書に
したがって行ってください。